

## I 研修内容

### 「教師間の連携と効果的な指導体制作りについて」

1. 自立活動手順シートの作成による中心課題の把握、周辺課題の確認、記録ファイル作り
2. 時間割編成と教師の配置、各生徒への取り組み内容の計画と調整
3. 生徒個々の課題解決に向けての、専門家活用による手技・知識の伝達

## II 研究成果

1. 「自立活動手順シートの作成による中心課題の把握、周辺課題の確認、記録ファイル作り」
  - (1) 自立活動手順シートを作成することで、生徒個々の中心課題や周辺課題について、担任を中心とした関係職員で把握し、自立活動の指導に活かすことができた。
  - (2) 取り組んだ内容を授業の担当教師が記録ファイルに個別に記入することで、活動内容の把握と調整を行うことができた。
2. 「時間割編成と教師の配置、各生徒への取り組み内容の計画と調整」
  - (1) 1学期の授業の反省を踏まえて、2学期は「自立活動」の授業を担当する教師の男女の比率や各生徒担当が配置できるように時間割を調整してもらい、指導体制を整えることができた。
  - (2) 2コマ連続授業と1コマ授業での取り組み内容が明確になり、生徒個々の活動内容について見通しを持った活動の計画ができた。
3. 「生徒個々の課題解決に向けての、専門家活用による手技・知識の伝達」
  - (1) 専門家による手技・知識の伝達を受けることで、各生徒へのアプローチ方法の確認や、統一した指導を行うことができた。個別の課題解決に向けた姿勢指導や弛緩法についても学ぶことができた。
  - (2) 専門家による手技・知識の伝達や指導を受けている場面を、動画や写真などに記録することで、日々の活動が充実してきている。

## III 研究課題(今後の取組)

1. 「自立活動手順シートの作成による中心課題の把握、周辺課題の確認、記録ファイル作り」
  - (1) 教師間で、自立活動手順シート作成を行う手順の確認や時間の確保が今後も必要である。
  - (2) 記録ファイルへの記入忘れがあるので、授業で担当した教師へ呼びかけて、記録を取ってもらう。
  - (3) 自立活動手順シートと授業の記録ファイルは、次年度へ引き継いでいく。
2. 時間割編成と教師の配置、各生徒への取り組み内容の計画と調整
  - (1) 一人の生徒に対して教師が2人必要な場面がある。他の生徒との活動内容の兼ね合いもあるので、授業ごとに活動の量や調整の細かな調整が必要である。
  - (2) 教師の持ち時数が増えており、教師負担も懸念されるが、自立活動以外の他の教科も含めた時間割の調整が、適宜、必要である。
3. 「生徒個々の課題解決に向けての、専門家活用による手技・知識の伝達」
  - (1) 専門家による指導や手技伝達の場面を動画や写真で撮影し、記録として次年度へ引き継ぐ。
  - (2) 日々の教師間の困り感や生徒個々の課題解決に向けて、専門家活用の継続が必要。